

## 第239回鶏病事例検討会「特用家畜の衛生管理」のお知らせ

「特用家畜の衛生管理」をテーマとして、第239回鶏病事例検討会を下記のとおり開催します。多くの方のご来聴をお待ちしております。

**開催日時：**平成17年6月17日 13:00～17:00

**場 所：**農林筑波水産技術会議・事務局事務所2階、  
「農林ホール」(動物衛生研究所の隣)  
茨城県つくば市観音台 2-1-9

**プランナー：**小貫 登輝夫(茨城県県北家畜保健衛生所)

**司 会：**斉加 啓三(千葉県中央家畜保健衛生所)

**講 演：**

1. ダチョウの解剖、鶏との違い(40分)

宮木 孝昌(東京医科大学 解剖学第1講座)

2. ダチョウの育雛・育成と日本や世界のダチョウ産業状況(40分)

小久保 謙(日本オーストリッチ協議会 事務局)

3. ダチョウの感染症(40分)

竹原 一明(北里大学 獣医畜産学部家禽疾病学教室)

4. ダチョウ牧場における衛生検査(40分)

糟谷 和美(愛知県東三河家畜保健衛生所)

5. ウズラの疾病と衛生対策(40分)

伊藤 裕和(愛知県農業総合試験場 畜産研究部)

## 平成17年度科学技術週間一般公開報告

平成17年度の科学技術週間一般公開が4月20日(水)、農林研究団地の研究機関で一斉に開催された。今年は「動物を衛<sup>まも</sup>るヒトを衛<sup>まも</sup>る」のテーマのもと、一般の方が日頃よく耳にする話題と疑問を分かりやすく解説する中で当所の役割や研究活動を紹介していこうと、講演会および研究紹介を行った。

講演会は「BSEってなに?」(講師:プリオン病研究センター病原・感染研究チーム長 横山隆)鳥インフルエンザってなに?」(講師:感染症研究部病原ウイルス研究室 岡松正敏)の2つの話題で、広場に面した小ホール(食事室)で開催した(写真)。講演会を目的に来場された方がおられたり、講演後に質問が次々に出されたりと、これら疾病への関心の高さとこのような機会への期待を伺い知る事ができた。

研究紹介コーナーでは講演会に関連した展示を行った(写真)ほか、最近の研究成果の中から新たなヨーネ病早期診断法などについて開発に携わった研究者らが熱心に紹介を行った。高病原性鳥インフルエンザ等の伝染病が発生した際の発生地域管理用プログラムの紹介ブースでは架空データを用いた実演を行い、見学者はプログラムの動きが写し出されるスクリーンに見入っていた。家畜の病原体としての寄生虫、原虫、細菌、ウイルスの様々な姿を紹介するブースではずらりと並んだシャーレや顕微鏡に多くの方が興味を示し、専門の研究者が語るこれらの世界の話に耳を傾けていた。鯨精巢DNAのエタノール沈澱を行う実験「遺伝子を目で見てみよう」に参加した方は、手にしたチューブの中に糸状になって現れてくる遺伝子を感動の面持ちで見つめていた。昨年からの人気企画、当所が開発した診断薬

を使ったミニ実験の会場は終日、実験衣を纏った沢山の参加者で賑わっていた(表紙写真)

当日は朝から雨が心配されたが、午前中は例年人気の「ポニーと遊ぼう」などの大動物とのふれあいも楽しんでもらうことができた。午後は雨で中止となったが、屋内に設けたウサギの獣医体験コーナーは一層の賑わいを見せて、獣医指導のスタッフもウサギたちも大奮闘であった。

一日の来場者数は735名で例年より少なかったが、当日回答いただいたアンケートには「分かりやすい説明で、いろんなことを知ることができました」「DNAの研究に興味があります。医学の分野で活かされていくとすばらしいですね」などの沢山の声寄せられ、動物とともに当所の研究活動にも多くの方が関心を持ち、楽しんでいただいた一般公開であった。(情報資料課)



◀講演会



▶研究紹介コーナー